

北アルプス

表銀座縦走

2010年5月1~4日

L後藤 西村(記)

08年、後藤さんと燕岳から槍、北穂高までの縦走を計画したが、中退したため今年改めて再チャレンジすることとなった。

<1日 曇りのち快晴>

6:45 中房温泉出発。GW初日とあって人だらけの合戦尾根を登る。雪は思ったより多くアイゼンを早めに装着する。昼前から見る見る雲が晴れ、合戦小屋に着くころは、雲ひとつない快晴となった。12:00 燕山荘着。一昨年同様、燕から大天井岳方面へ向かう者はほとんどなく、トレスは辛うじて付いている程度である。合戦尾根を登っていたあの大勢の人たちはどこへ行ったのか不思議なくらいである。蛙岩、大下り、吊岩と進むがテン場予定の大天井岳には届かず、標高 2600m 付近でテントを張ることとなった。

<2日 快晴>

6:20 テン場発。大天井岳には登らず頂上西側を巻いて喜作新道に入る予定だったが、トラバースが思ったよりきつそうなので大天荘経由で夏道をたどり新道に入ることにした。しかしこの大天荘から大天井ヒュッテまでの夏道ルートがくせもので、急な斜面

をトラバースすることとなり、意外と時間がかかってしまった。積雪期にここを通過するには、頂上からまっすぐ大天井ヒュッテに向かって下った方が早く安全である。ビックリ平、赤岩岳と順調に進み、15:30 ヒュッテ西岳に着いた。

今回は軽量化のため、スコップを割愛したのだがこれが大きな失敗で、ピッケルのブレードを使って雪を切り出すのがすこぶる大変で、テントを設営するのに倍の時間と労力がかかってしまった。この時期でも、パーティーに1本はスコップが必要である。良い勉強になった。

<3日 快晴>

抜けるような青空の下、縦走3日目に入った。6:20 テン場発。西岳の急な南斜面を慎重にトラバース。50分で水俣乗越に着く。右手はるか下には槍を目指して多くの登山者が槍沢を登っているのが見える。夏場の梯子、鎖は雪に埋もれ全く見えない。慎重なアイゼンワーク、ピッケルワークで高度を徐々に稼ぐ。念願の雪の東鎌尾根は、素晴らしい雪稜で、急峻なナイフリッジに緊張しながらも眼前にそびえる槍の雄姿は、縦走の疲れを忘れさせてくれる。

11:50 肩の小屋着。北穂への思いは断ち難かったが、時間切れのため横尾へ向かって槍沢を下る。